

平成30年度 学校関係者評価書

学校名	北海道 浜頓別 高等学校	校長名	榆木 伸司	実施日	平成31年3月13日
-----	--------------	-----	-------	-----	------------

1 学校教育目標

1 学力・体力をつくとともに、情操を培う。 2 開拓者精神を受け継ぎ、創意工夫の実行力を養う。 3 明るく、楽しい社会の形成者としての資質を養う。
---------------------------------------------------------------------------

2 本年度の重点目標

<p>目標に向かって心豊かで、たくましく、主体的に行動できる生徒の育成を目指す。</p> <p>(1) 進んで学習に取り組む意欲・態度を培い、社会で生きる実践力を高める。</p> <p>(2) 挨拶の励行や生活習慣の改善を促し、自己をコントロールできる力を高める。</p> <p>(3) 進路に係る情報を進んで求める姿勢及び目標を定め、ねばり強く挑戦する姿勢を育む。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

【教育活動】

項目	今年度の目標	目標達成のための方策と評価の観点	達成状況	評価	自己評価の結果	改善の方策	
【学習指導】 基礎・基本を定着させ、自学自習できる人の育成	基礎基本の定着	授業評価を活用し、基礎基本の定着や理解の深化が学力向上に結びついているか	2.8	B	○本校の学習指導において、学習習慣の定着をどう促すかが最大の課題であると考え、効果的な改善方策は見つかっていないのが現状である。学年または教員個々に指導に邁進しているところではあるが、いずれの方法においても学習習慣の定着にはいたっていないようである。 ○教務としては、授業改善に向けて授業公開週間を設定するなど取り組んでいるところではあるが、教員全体の機運があがっているとはいえない状況である。	◇学習習慣の定着に向けては効果的な改善方策は見つかっていないが、今後も継続してその方策を模索していく。 ◇授業公開週間について、実施する期間を延ばしたり、重点化するポイントをはっきりさせて行ったりするなどし、効果的な取り組みとなるよう検討する。	
	授業改善の推進	授業見学を相互に行い、授業改善が進んでいるか	2.7	B			
	家庭学習の習慣化	家庭学習の習慣化に向けた取組が定着へと結びついているか	2.3	C			
評価者の意見等	学力向上に向けて、学年団や教科担任が、日々の授業やHR活動の中で、週末課題、朝学習、宿題等工夫をしながら取り組んでいることがうかがえる。家庭学習習慣定着へ向けて、効果が得られたとはいえないが、粘り強く指導をして欲しい。また、生徒自らが社会に出て行くために学習習慣が必要であることを強く意識させるとともに何のために学習するのかを自問自答する時間を持たせる必要もある。さらに高校生が幼稚化する流れの中で、幼少期からの生活習慣も大きく影響しているだろう。					自己評価の適切さ <b>B</b>	改善に向けた取組の適切さ <b>B</b>
【生徒指導】 規範意識を持ち、他人の痛みがわかる温もりのある人の育成	生徒理解の推進	面談や声かけによる生徒理解を深め、個に応じた指導が進んでいるか	3.3	B	○行事等における生徒間のトラブル対応では、養護教諭やHR担任等と情報共有を行い、早期の対応をすることができたが、教員の全体的な連携や能力・資質の向上には改善の余地がある。 ○生徒の自主性・主体性の向上のため、行事の振興・外部との連携につとめた。	◇昨年度に引き続き生徒の情報共有・共通理解のための連携を取るための方策を整理・精査する。 ◇生徒の問題行動の早期発見・早期対応のために教員個々の教育相談スキルを高めるとともに、外部諸機関との連携も視野に教育相談体制の改善に取り組む。 ◇生徒指導事故や生徒間トラブルの未然防止に向けた取組を模索していく。 ◇基本的な生活習慣や社会のルールの指導のため、教員の能力・資質向上の機会を増やしていく。	
	SNS利用や、マナーの向上	被害者も加害者も出さぬよう、規律遵守や自他の尊重の意識が高まっているか	2.9	B			
	体験活動の充実	生徒会行事・部局活動を通して、社会性や自己有用感が育まれているか	3.2	B			
評価者の意見等	多様な生徒に対応するために、教育相談体制を充実させることが引き続き重要事項として捉える必要がある。スマートフォンの普及により情報の取捨選択等の活用能力が必要である。また情報を発信する際は誤って捉えられた情報が一人歩きしないよう正確な情報把握をうながすことが必要である。さらにSNS等のマナー、モラル指導は非常に重要な要素であり、生活習慣や学習習慣にも大きな影響を与えているので継続した指導が必要である。					自己評価の適切さ <b>B</b>	改善に向けた取組の適切さ <b>B</b>

【進路指導】 進路実現を 目指し、切磋 磨きして自ら切 り開く能力の 育成	キャリア教育の充 実改善	進路情報の提供や面談の充実を図り、ミスマッ チのない指導が行われているか	2.9	B	○校内研修を通じて上級学 校に対する情報の共有を図 っていったが、生徒の多様 な進路の状況を鑑みて、引 き続き情報の共有と生徒へ の還元をして行く必要があ る。 ○昨年度に引き続き、キャ リア教育を実施するにあた って町内企業や外部機関と の協力によって進めること ができた。	◇校内研修の機会や内容を 充実させて教員間の情報の 共有を図るとともに、それ らを生徒に還元させてい く。 ◇今年度実施の状況を踏ま えつつ、次年度も町内の企 業や外部機関と協力しなが らキャリア教育を実施して いく。	
	進路支援体制の充 実	講習の充実と生徒の内発的な動機付けを図 り、組織的な生徒支援ができていますか	3.0	B			
	体験活動の充実	地域連携の下、求人開拓を行い、就労体験が 行われているか	3.2	B			
評価者の意見等	民間就職、公務員就職、専門学校、大学と、幅広い進路指導に対して適切な指導を行っていることが伺われるとともに求められる成果をあげている。地元企業の説明会や進学層段階などの多くの機会をもつことや、教員の研修等今後も継続して欲しい。他市町村の取り組みを参考にしたりするなどして、町をあげた取り組みとして、活性化していくことを望みます。					自己評価の適切 さ	改善に向けた取 組の適切さ
						A	A
【健康安全指導】 心身の健康 増進と環境 美化の意識の 高揚	健康増進に向けた 指導の充実	生徒自らが健康管理できるよう保健室と連 携を深め、計画的な情報提供ができていますか	3.2	B	○自己管理能力の育成や自 分の言葉で体調を伝えられ るようにするなど継続した 指導が必要である。 ○個人面談等、保健指導の 充実を図ることができた。 担任や保護者、外部機関と の連携共有を行うことが できた。 ○校内の使用は多少の破損 があった。軽微なものに関 しては修繕できたが、未修繕 の場所もある。	◇次年度も継続し、医療機 関や教職員と連携して、円 滑な実施をしていく。各学 校行事においては、健康調 査をもとに保護者と連携し て事故や病気の予防、迅速 な対応ができるようにす る。 ◇引き続き全校生徒面談を 継続すると共に、保健室に て得た情報を共有し組織的 に対応していく。生徒にと ってより良い相談体制作り を模索していく。教員の教 育相談スキルの向上に向け た研修等を取り入れてい く。 ◇保健専門委員会を中心とし た環境美化活動を全校生徒 へ広げて行く。	
	教育相談体制の充 実	個に応じた教育相談が適切に行われ、組織的 な生徒支援が図られているか	3.2	B			
	命や性及び自然災 害危機管理の改善	生徒の安全確保を第一に情報収集を行い、講 話や体験活動が適切に行われているか	3.3	B			
評価者の意見等	自己の健康管理意識を高める指導を継続してもらいたい。また、心の不調が他に与える影響が大きいので、養護教諭の役割は非常に大きいと考える。先生方が生徒変化を見逃さないようしっかりと観察して欲しい。					自己評価の適切 さ	改善に向けた取 組の適切さ
						B	B

#### 【学校運営】

項 目	今年度の目標	目標達成のための方策と評価の観点	達成状況	評価	自己評価の結果	改善の方策
【地域に信頼され る学校づくり】 地域から支 持される学 校づくりの 推進	情報発信の推進	2 間口維持に向け、地域に対し積極的な情報 発信を行い、積極的なPR をしているか	2.5	B	○2 間口維持に向けて、取り組 んで来たが、思うような結果が 得られなかった。 ○中高懇話会、授業公開週間、 1 日体験入学での模擬授業な ど、職員の協働体制のもと取 組むことができたが、中高の連 携、交流という点で課題が残 る。 ○地元関係者との協力のもと、 教育資源を活かした、体験型授 業を実施し、効果をあげること ができた。また地元企業との連	◇次年度もHPの適宜更新や 各種報道機関を効果的に利用 し、PR活動を強化していく。 また、今年度より導入したメ ール配信システムを緊急連絡 のみならず、保護者への広報手 段としての効果的に活用する。 ◇授業公開や研修会を通じて、 小中高との積極的な交流をし、 生徒の実態把握や授業改善に 役立てる。また、1 日体験入 学の日時を変更し中学生にPR する。
	近隣中との相互交 流	中高連携による授業公開を行い、生徒の実態を 把握し、授業改善を推進しているか	2.4	C		
	地域の教育資源の 活用	自然環境や地域人材を活用し、地域連携の下、 地域貢献・地域理解活動が行われているか。	3.0	B		

	職員の情報交換・協働体制	報連相を徹底し、共通認識の下、協働体制で教育活動を展開しているか	2.7	B	携のもと校内企業説明会を充実させた。 ○職員の共通認識、協働体制の構築に課題が残った。	◇風通しの良い職場に向けての雰囲気づくりと職員間の報告・連絡・相談、さらに調整・確認の確立を進め、協働体制による教育活動の推進を行う。	
評価者の意見等	地域との連携強化や地域の教育資源を活用した体験活動は今後も継続して欲しい。中学校との連携をより強く持つために、取り組み内容を工夫してみてもどうか。部活動の連携も一つのアイデアか。保護者と共に町と共にみんなで力を合わせ、協働体制をより強化し、地域に信頼される学校づくりに励んでもらいたい。					自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
						B	C
【組織運営】 学校課題の共有と迅速・的確な連携による協働体制の確立	生徒支援に向けた実効性のある計画の策定と実践	より良いものを目指してPDCAサイクルを活用し、改善に向けた課題解決への方策を共有し、計画的に進めているか。	2.6	B	○学校経営計シラバスの重点目標を、それぞれが強く意識し、教育活動の組織的な推進と、より具体的な目標を掲げ、実践・評価・改善の確立に向けた、意識の統一を図る必要がある。 ○教育活動の即時反省、課題の重点化を行い業務の効率化を図っているが、いたらないところが多い。再度業務の効率化等について検討していく必要がある。	○全教職員が学校経営シラバスの重点をより強く意識し、より具体的な実践項目を計画、立案し、分掌・学年経営に反映させ、達成に向けたPDCAサイクルを活用し、教育活動に反映させる。 ○3S（スピード・ショート・スマイル）を合い言葉に、業務の効率化や時間外勤務縮減を図る。前年度踏襲にとらわれず、新たな発想やアイデア等を活用し実践をめざす。 ○効率化に向けた複数体制での業務推進に向けて一層の取り組みを行う。	
	3S（スピード・ショート・スマイル）を重視した学校運営	時間外勤務の縮減に向け、先を見通して業務にあたり事後には即時反省・評価を行うなど改善への手立てが効率的に図られているか。	2.3	C			
評価者の意見等	年齢も、経験年数も若い先生方が多い中で、熱心に取り組んでいることがうかがえる。自己評価が低い傾向にみえるが、自信を持ってとりくみ、積極性を持って浜高のために頑張ってもらいたい。					自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
						B	B
【教職員の資質向上】 校内及び校外での研修体制の促進	カリキュラム以外を活用した授業力の向上	ICT教材の活用や授業評価における改善を教科指導力の向上につなげているか	2.7	B	○学習の基盤となる資質・能力や課題解決能力育成のため、「目指す生徒像」についての研修会を行い、カリキュラムマネジメントの視点にたった教育課程に基づく教育の質の向上を目指す基盤づくりを行った。 ○教職員全体に、常に事故や事件と隣り合わせにあるという認識を持つよう情報を共有した。事例研修などを通して、危機管理意識の向上を図る必要がある。	◇新しい取組、他校の実践例等も積極的に情報収集し、研修会の場を設け、教育課程に基づく質の向上を目指していく。 ◇授業公開の機会を増やし、参観しやすい校内体制を構築して、授業改善に向けた相互の交流の機会を増やす。 ◇社会や生徒の変化に応じた危機管理に対する校内研修や危機を想定した訓練等を積極的にを行い、課題を踏まえ、危機管理体制・能力の向上を図る。 ◇同僚性を向上させ、話しやすい雰囲気の中で「聞く、考える、対話する、気づく」ことを目指し、日常実践の改善に努め。	
	服務規律の遵守	常に自身の言動に自覚と責任を持ち、信頼関係構築について適切な対応をしているか。	2.9	B			
	研修の推進	通知等の趣旨を理解し、自身の資質能力の向上に対する効果的な研修を進めているか。	2.7	B			
	資質能力の向上	初任者に対し、先輩教諭が適宜助言を行うなど、相互支援体制が図られているか。	2.7	B	○学習指導や生徒指導・分掌業務等について、教員間で意見交換や、助言、支援、出来る協働体制をより強くする必要がある。		
評価者の意見等	学習指導や生徒指導・進路指導の改善充実に向けて引き続き指導に尽力してもらいたい。また、他校の取り組みを学ぶなど、先生方が積極的に研修に参加し、資質向上に向けて努力してもらいたい。ICT技術等のスキルを十分に身につけて、生徒への指導を行ってもらいたい。					自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
						B	B

自己評価の指標

【達成状況の指標（各教職員による評価）】

- 4 具体的な取り組みが行われており、目標等の達成が期待できる。
- 3 具体的な取り組みが行われている。または、具体的取り組みに向けて積極的に検討中である。
- 2 組織（分掌・学年等）として一般的な議論はしたが、具体的取り組みに向けての検討に至っていない。
- 1 課題の重要度は理解しているが、全くあるいはほとんど検討していない。

【評価の指標】

- A 十分な取組が行われた。
- B おおむね十分な取組が行われた。
- C やや取組が不十分で改善が必要である。
- D 取組が不十分で抜本的な改善が必要である。

学校関係者評価の指標

【自己評価の適切さに対する指標】

- A 適切な評価である。
- B ほぼ適切な評価である。
- C やや不適切な評価である。
- D 不適切な評価である

【改善に向けた取組の適切さに関する指標】

- A 十分な効果が期待できる。
- B ほぼ十分な効果が期待できる。
- C あまり効果が期待できない。
- D まったく効果は期待できず、改善を要する。